

731部隊医師・二木秀雄の創刊した占領期時局雑誌「輿論」「日本輿論」、「政界ジープ」、厚生省医務局監修「とびら」「医学のとびら」 (第4版、2016.6現在)

● 1945年8月、参謀本部の指令で証拠を隠滅し最優先で日本に帰国した731部隊関係者は、[金沢市に「仮本部」](#)を置き、証拠隠滅・機密厳守・前歴秘匿を3000人近い隊員たちに指示し、名簿と連絡網を作って[米軍との戦犯免責・データ提供交渉](#)を石井四郎らが進めたこと、その連絡網の実務に二木秀雄があたったことはまちがいなさそうです。ただし、二木の担当したのは後に「[精魂会](#)」に組織される上級幹部たちの連絡網らしく、後に「[房友会](#)」などに組織される一般隊員・少年兵らの戦後は、いまひとつはつきりしません。前歴を隠した再就職で苦労したという話があれば、東京裁判での戦犯免責がはつきりする1948年末から49年頃まで月一度連絡員がまわってきて「給料」が支払われ、免責確定後高額の「退職金」が支払われたという話もあります。したがって、731部隊はいつ解散したのか、敗戦後の[重人恩給](#)を受けたのかどうかも、さだかではありません。この731部隊員の戦後は、いま集中的に手記・回想等を集め検討している事項です。特に房友会機関誌『[房友](#)』（100号くらい出たという）をお持ちの方がいれば、ぜひご一報ください。

● 基礎資料となる、二木秀雄が敗戦直後の金沢で発行した旬刊『[輿論](#)』、月刊『[日本輿論](#)』の数が、全国八方手を尽くしても、見つかりません。二木が上京して1946年8月から56年3月頃まで刊行した時局雑誌『[政界ジープ](#)』についても、プラング文庫にも[国会図書館](#)にも欠号があり、特に朝鮮戦争から「[政界ジープ恐喝事件](#)」廃刊までの50年代のバックナンバーが、「[日本の古本屋](#)」等で収集しても、欠号が数多くあります。この間何人かの方からバックナンバー情報がありましたが、いずれも1946―50年のものでした。引き続き、[表紙カバー](#)と、判明した「[総目次](#)」を掲げ、皆さんの協力を仰ぎますが、その後下記リストの「[総目次](#)」を精査して、新たな論点が出てきました。新たな問題は、金沢『[輿論](#)』『[日本輿論](#)』及び初期の『[政界ジープ](#)』印刷所が、金沢の「[吉田次作](#)」印刷所で、戦前から陸軍御用達の印刷を引き受け、満州にも進出し、戦後も[金沢商工会の中核](#)にいた人物、さらにはこの「吉田印刷」と、石川出身で石原完爾の[東亜連盟](#)に近かった元大本営参謀・[辻政信](#)との関係がでてきたことです。二木秀雄が45年11月から旬刊誌『[輿論](#)』を始めるにあたって、用紙の確保、印刷日程の融通などで「[吉田次作](#)」に頼ったであろうことは、まちがいなさそうです。

5、もう一つは、『[政界ジープ](#)』の編集・発行人の推移、または二木秀雄の出版経営術です。『[政界ジープ](#)』は、1946年8月創刊から49年4月号までは「ジープ社、編集発行人二木秀雄」ですが、49年5月から50年3月号まで「[東京トリビューン社](#)」という別会社（といっても同一住所）が、発行元になります。「発行者」はこの間、49年5月から12月まで「狭間研一」、50年1―3月は「東京トリビューン社、二木秀雄」です。ちょうど[厚生省医務局『とびら』](#)『[医学のとびら](#)』を「ジープ社、二木秀雄」名で出していた時期で、どうやら一般向け『[政界ジープ](#)』と医師・医学界向け『[医学のとびら](#)』の発行元を、いったん分離したようです。もともと『別冊・政界ジープ』及び単行本は、基本的に「ジープ社・二木秀雄」発行です。朝鮮戦争直前の1950年4月号から51年7月号での一時休刊までは、『[政界ジープ](#)』も版元は「ジープ社」に戻りますが、「編集人」として、50年6月から「中西清」、8月から「本田二郎」、51年には「高橋輝夫」「由良猛」「横山敏和」らが登場します。「発行人」も、二木秀雄から「佐藤浩四郎」「中西清」と代わります。どうやら朝鮮戦争・再軍備時の謀略と[日本ブラッドバンク](#)創設に二木が飛び込み、出版事業の手抜きが始まったようです。52年4月に復刊した『[政界ジープ](#)』は、「株式会社ジープ新社、編集人宮下隆寿、発行人仁藤直哉」とあり、この辺が欠号が多くはつきりしないのですが、二木が参院選石川地方区に立候補した53年3月・4月号は、なんと社名が「株式会社・精魂社」です。つまり731部隊同窓会「精魂会」と似た名になり、発行人は「市川文三」とあります。

それが53年8月号では、二木が落選・復帰したのか「政界ジープ社」刊となり、「編集人小山耕二路、発行人 二木秀雄」とまた変わります。以後確認できるのは、1955年の「政界ジープ社」で、56年3月の大企業恐喝による「政界ジープ事件」までは「編集人久保俊廣、発行人清水隆英」のようです。ですから「[政界ジープ事件](#)」の7000万円近い恐喝容疑では、社長の清水隆英と編集局長の陸軍中野学校出身・久保俊廣がまず逮捕され、実質的オーナーである二木秀雄の逮捕は56年4月と遅れ、二木が私物化してきた[高橋お伝の標本](#)まで隠匿できました。731部隊にならった証拠隠滅をはかったのか、60年代まで続いた裁判でも、主犯と認定された

二木の求刑は懲役6年でしたが、最終判決は3年でした。二木は「ジープ社」「東京トリビューン社」「ジープ新社」「精魂社」「政界ジープ社」と同じ番地の事務所にいくつもの社名を使い分けて、政財界の黒幕と結びついていたようです。また、731部隊同窓会「精魂会」の発足は、[日本ブラッドバンク](#)と同じ1950年とも、[多摩墓地「精魂塔」](#)を建立する1955年とも、記録により異なりますが、朝鮮戦争時の53年に二木の「精魂社」という出版社があって「[日本ブラッドバンク](#)（薬害エイズの[ミドリ十字](#)の前身）」に結びついていたとすると、どうやらどちらも二木秀雄の発案で実在したようです。

● 『政界ジープ』が「精魂社」で発行されていた1953年4月、社主の二木秀雄は、郷里の金沢で、[参院選石川地方区から立候補](#)しました。この意味が、石川県の政治史を調べてみると、大変な問題であることがわかりました。前年52年10月総選挙で、[石川県出身](#)で旧大本営参謀、「潜行3千里」の[辻政信](#)が、晴れて戦犯を免がれ「反米反共」を掲げてオモテの政治に立候補、衆院石川一区は「辻旋風」で、トップ当選しました。それが半年後、吉田茂の「[バカヤロー解散](#)」で、53年4月の衆参ダブル選挙になりました。衆院では、石川の[東亜連盟](#)・旧軍人組織に支えられた辻政信が2位で再選されましたが、この4月ダブル選挙の石川県での天王山は、参院選地方区の方でした。参院議員で現職国務大臣の[林屋亀次郎](#)が、吉田内閣の[米軍内灘射撃場誘致](#)の説得役になったため、保守勢力の中でも[内灘射撃場反対](#)の声が高まり、金沢の財界を代表する対抗馬、改進黨の[井村徳二](#)に、社会党・共産党や労働組合までが実質支持にまわり、全国からの[内灘闘争](#)支援の動員にも支えられ、僅差ですが井村が現職大臣林屋を破り、当選しました。衆院の[辻政信](#)も、「[反米自衛](#)」の独自の立場から、内灘基地誘致には反対しました。砂川闘争など後の[反米軍基地闘争のさきがけ](#)で、[清水幾太郎](#)が基地反対・安保条約反対の論陣を張り、五木寛之が『[内灘夫人](#)』の舞台として描いた全国的にも注目の参院選でした。この現職大臣林屋19万票を井村21万票が上回り、米軍基地反対派が勝利した内灘選挙戦に、割って入ったのが第3の候補者二木秀雄でした。実際には1万2千票しかとれない泡沫候補でしたが、当時の『政界ジープ』の論調などを見ると、どうやら衆院石川一区の辻政信選挙の参院選別働隊で、辻の強固な支持者である東亜連盟・旧軍人票の受け皿になるために、林屋・井村の内灘決戦に割り込んだようです。この辺のことは、地元金沢での調査が必要ですが、この選挙での敗北が、二木秀雄『政界ジープ』の[大企業・大銀行恐喝雑誌化](#)、[久保俊廣](#)ら総会屋輩出への転換点になったようです。引き続き、皆さんの情報を求めます。

● 『政界ジープ』収集のさい、一つ大きな見落としがありました。占領期大衆政治誌ですから、当然ながら国会図書館と共に[大宅壮一文庫](#)にあたったのですが、そのさい索引で検索できる雑誌が「主要誌」であったのに気づかず、ないものとあきらめて法大図書館や近代日本文学館、最近では成田山の仏教図書館などで一つ一つ補充してきました。ところが先日改めて大宅文庫のカタログ内部に立ち入って調べたところ、以下のように、これまで欠号の多かった1950年代朝鮮戦争後の分が大量に所蔵されていることがわかりました。国会図書館にもない分です。これらにもとづいて、2016年6月総目次を更新しました。

政界ジープ
(政界ジープ社) 月刊
昭和23年9月(3巻9号)～30年12月(10巻12号)
欠本=昭和23年(10月, 12月) 24年9月, 25年8月, 26年(2月, 5月, 8月～12月) 27年(10月を除く) 28年(2月～7月, 9月, 10月) 29年(1月, 6月) 30年(2月, 10月)
臨増=昭和23年9月, 25年(4月, 5月, 9月) 26年(2月, 3月, 5月, 6月)

● この結果、2016年6月時点での『政界ジープ』欠号は、以下の冊か？

1952・8	国会・大宅欠	1952・9	国会・大宅欠	1952・10	国会・大宅欠
1952・11	国会・大宅欠	1953・2	国会・大宅欠	1953・5	国会・大宅欠
1953・6	国会・大宅欠	1953・7	国会・大宅欠	1953・9	国会・大宅欠
1953・10	国会・大宅欠	1954・1	国会・大宅欠	1954・6	国会・大宅欠
1956・1	発行未確認	1956・2	発行未確認	1956・3	発行未確認、

1956年3月26日「政界ジープ」恐喝事件発覚、廃刊

● 旬刊『輿論』、『日本輿論』総目次

金沢市石浦町[現香林坊]28番地・輿論社（創刊号のみ大山公平、2号から二木秀雄発行、旬刊（45/8-9 731部隊金沢集結 15 人野間神社に 731 部隊仮本部、資材標本、金沢医大教授石川太刀雄・病院倉庫）。西田園夫『創刊のころ——金沢の戦後雑誌から』1973, p. 43 によれば、『輿論』は二木秀雄・元金沢医大細菌学教官と柏原勉・元主計大尉が11月10日創刊。国会にもプランゲ文庫にも『輿論』はなし（後継『日本輿論』のみプランゲ文庫に検閲有であり）。赤字は加藤収集済み、青字はプランゲ文庫。

『輿論』『日本輿論』、初期『政界ジープ』の印刷所は、金沢市中町二四番地 吉田次作（軍と結びついた金沢商工会の有力印刷所、1952.10衆院選では東亜連盟と共に辻政信当選の立役者）

1945・11・10創刊号（編集兼発行人 大山公平、金沢文園閣より入手） 「創刊の辞」（澆刺たる輿論こそ新日本建設の中核、自由の声、国民の実力、民衆の創造、同人はすべて郷里に縁故のある人達）、「進駐軍と語る」（室伏哲郎他名前はなし？）「進駐軍とわれら」「再建政治のあり方」「原子爆弾を繞る世界最近の動向——平和維持のために」（産業利用）、連載「敗戦哲学」「国際短波」、編集後記（再建日本には純正なる言論による民意の確立こそ絶対不可欠、社内に政治経済文化学術研究所、連合進駐軍の了解のもと連合軍の意見掲載）（この日、千葉県で石井四郎偽装葬儀）

1945・11・20 2号（編集兼発行人 731 二木秀雄）社論「天皇制を国民直接に決せよ」、「原子力と将来の産業」、米スポーツマン M 中尉は語る、連載：中村静治「新生婦人の常識」

1945・12・10 3号（8頁検閲無）社論「新世界観による日本憲法の創造」、「輿論調査 貴下は天皇制を存続せしむべしと考えられるか否か」、敗戦哲学、平松博（金沢医大）「新しき教育：教育を能率化せよ」、中村静治「新生婦人の常識」、S 中尉アメリカの家庭生活を訊く、生活医学、コント

1945・12・21 4号 石川太刀雄（金沢医大、731 部隊病理班長）「20 世紀の神話 原子爆弾」、中村静治「日本経済再建の道」、バーナム「管理社会革命」、ナイト（米軍人）「日本の風物に接して」（この号のみ広島市立図書館所蔵）

1946・1・1 2巻1号（立教大学井川充雄教授提供、）「既成人と新人の一問一答、自由党総裁鳩山一郎氏と輿論社社長二木秀雄博士」（本社側二木社長、副社長柏原勉、日本自由党鳩山総裁、代議士瀧澤七郎、元代議士竹田儀一、自由党石川県幹事長重山徳好、自由党石川県婦人部長加藤二郎、自由党婦人会員樫田操）、輿論調査発表「審議会には新人を」、北斗玄洋「救済に全国方面委員は立つ」、中村静治「新生婦人の常識」、医学博士・田中富士夫「生活医学」、村瀬幸子「短歌」

1946・1・11 2巻2号 金沢市武蔵ヶ辻 田守ビル 輿論社、「輿論調査（227 サンプル）発表 天皇制の絶対維持 91%、天皇制廃止説 9%」〈南日本新聞 45.10, 共同通信・読売報知 45.12 の結果散逸のため 45.12 の日本輿論調査所 94.8/4.9%日本輿論調査研究所 91.3/8.7%と共に現存戦後日本最古の天皇制輿論調査記録〉、731 二木秀雄「新生日本の理想（天皇制・軍閥・財閥・封建的土地制度の侵略戦争、人口問題再燃、農業科学高度化増産、ウェルズの原子エネルギーによる世界的ユートピアへの進化）」、室伏哲郎「一箱の煙草の話（原子爆弾と竹槍、アメリカ文化へ）」

改題月刊『日本輿論』（プランゲ索引では「日本与論」）

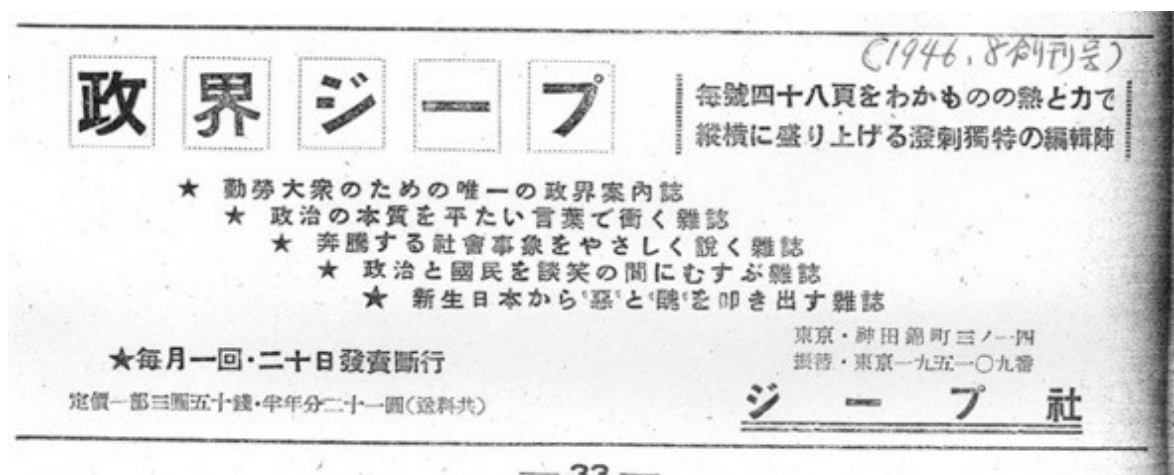
金沢市武蔵ヶ辻 田守ビル・輿論社・発行人二木秀雄

1946・3（2巻3号？ プランゲ検閲あり 7deletions）表紙（検閲）、731 二木秀雄「旬刊輿論改題、輿論調査網の確立」、室伏高信「輿論と方向」、京大教授・大西芳夫「天皇制に就いて」（検閲大幅 delete, nationalistic）、「天皇制の輿論調査発表：調査数 5000 回答 2131 天皇制支持 1963/92.1%（現状のまま 927/47.2%, 大権を縮小 431/21.4%, 政治の圏外に立ち道徳的中心として 615/31.4%）天皇制否定 120/5.6%（絶対不可 87/72.5%, 現在必要なるも将来不必要 33/27.5%）国民投票の後決定 21/1%不明 27/1.2%（参考：輿論調査研究所回答数 2389/天皇制支持 91.4%/天皇制反対 8.6%）」、住谷悦治「明治維新の性質について」、棟方志功、座談会（伊藤大輔・稲垣浩ほか）「日本映画界の昨日・今日・明日」（検閲、一部 delete）、中村静治「民主講座」、郭沫若小説、棟方志功

1946・4（2巻4号 プランゲ検閲あり）安田徳太郎「働く婦人に生理休暇を与えよ」、国立自殺庁（検閲）、座談会：神戸正雄・蜷川虎三・田岡良一・田畑盤門「永久平和への道」、731 二木秀雄「日本の方向」、室伏高信「新たな構想」、倉田一郎「女権の前史——婦人参政権をめぐる」、入山雄一「老闘士河上肇博士逝く」、渡辺政之助「ああ河上肇博士」、越村信三郎「自由と平等」、河上肇「亡友山本宣治君の墓前に語る」、加賀耽二（谷口善太郎）「薔の梅 山宣追悼会参列記」、深水清吉郎「紙幣は腐らず」、新洞壽郎「日本映画再建

のために」(検閲一部 delete、criticism of SCAP)、大庭さち子「小説 返り咲き」、世相評論「物物交換」(二木執筆、一部 delete、black marketing)、詩「国立自殺庁」(検閲全 delete、disturbs public tranquility)

1946・5? (プランゲ文庫4月号に予告、実際発行は不明)「時代の触覚—帝都一流新聞記者の打ち明け話座談会：毎日・朝日・読売各社記者」、「財閥の法的機構とその解体」、「知事公選論」、「家族制度論」、原「歴史は如何に書き換えるべきか」、越村信三郎「資本論人民講座」、高谷「歌舞伎の新生命」など



●『政界ジープ』バックナンバー・総目次(無署名・無名エッセイ、記者署名、漫画等略、次号予告も利用)
赤加=加藤収集済み、青近=日本近代文学館、緑法=法政大学多摩図書館、江=江戸東京博物館
国=国会図書館マイクロ YA-201 (プランゲ文庫、国会図書館、大宅壮一文庫とも欠号多数、表紙写真は別途収集)

1946・8創刊号<検閲無>加法 尾崎行雄「新日本建設の基点」、鈴木安蔵「勝利のために一民主戦線の展望」、井汲卓一「津田左右吉の天皇論」、阿部真之助「官僚論」、丸山幹治「幣原から吉田へ」、松谷天光「わたしの議会日誌」、731 二木「発刊のことば：新しい科学的世界観、ジープは近代アメリカ文明の最頂点の一つのあらわれ、総合判断の頭脳」

1946・9<検閲無：「女の子にもわかる大衆の政治誌」「小粒でピリッとした政界裏面誌」>加法 長谷川如是閑「象徴の諸相」、高橋正雄「割れた人民戦線」、永田徹「心と心のつながらぬ憲法論議」、高倉テル「議事堂という所」、細迫兼光「大山郁夫氏に寄せて」、原比呂志「揺らぐ保守陣営」(広告自社「孫悟空」「連合国の日本管理政策」、山之内製菓・広瀬サーベイズ、印刷金沢吉田印刷所)

1946・10<検閲有>加法 植村悦二郎「議員生活25年」、「憲法改正法案・衆議院を通過す」、小坂善太郎「孫会議員の話」<検閲一部 delete[村会は孫会]>、原彪、戸叶里子、丸山幹治「原敬は官僚か」、山浦貫一、高倉テル、北吟吉「改正憲法雑感」<検閲一部 delete[天皇制と家族制度]>

1946・11加法近(プランゲ45.11誤) 鈴木茂三郎「無産運動25年」、山口喜久一郎「院内ジープ」、林譲治「俳句」、大沢久明、近藤鶴代、志賀義雄「世相随筆」、永田徹、秋月潤、横山隆一

1946・12加(プランゲ欠) 齊藤隆夫「議会壇上の反軍闘争」、浜口雄彦「父を語る」、末川博「河上肇博士」、中西功「尾崎さんの想い出」、森巖「いつまで続く吉田内閣」、竹原信太「吹きまくる嵐—教壇を追われる教授陣」、「学生の政治運動」、横山隆一(広告：ゼネラル衛生濾水器、黄土社、理研ビタミン、凍傷治療剤タペシリン)

1947・1法 幣原喜重郎「政界よもやま話」、高津正道「憎まれる党、憎まれる政治家」、小川半次「子どもの世界」、左藤義詮「朝三暮四」、松尾トシ子「ある日の日記」、周東英雄「食べ物と政治」、林由喜太「投書狂時代」、青野ひろすけ「民主人民戦線をえぐる」(広告に山之内製菓・三共・東京銀行・武田薬品・塩野義・安田銀行・住友銀行・富国生命等加わる)

1947・2法 高橋正雄「3月危機のために」、阿部真之助「次の総理大臣は誰か」、山口シズエ「闇屋」、放良ふきすけ「若手の反動組」、上通二郎「歌う女代議士」、及川規、南義郎

1947・3法江（国会欠）星島二郎「片山哲君を語る」須藤恭「政党と人民」、上野満夫「連立内閣工作の裏表」、樽井近義「敗戦ドイツの世界」、山中鹿太郎「政界御曹司論」

1947・4 江（国会欠）芦田均、高倉テル、林要、深津玉一郎、有馬英二、西村栄一、北村徳太郎、江崎真澄、東隆、寺本文夫、近藤日出造 <プランゲでは「マッカーサーの解散命令」delete>

1947・5 江（国会・プランゲ欠）

1947・6法江 鈴木義男、細迫兼光、北浦圭太郎、金森徳次郎、近藤日出造、加藤悦郎、佐々木惣一（印刷所は共同印刷に＝メジャー化）

1947・7 加（国会欠）羽仁五郎「片山内閣論」、水谷長三郎「西尾末広を語る」、帆足計「参議院の職能」、矢野庄太郎「芦田均と私」、佐々木良作「議長選挙のことども」、石田博英「左派問題を中心に」、松本治一郎、近藤日出造、表紙中川一政 <政局評で「憲法改正は天皇のみできる」delete>

1947・8 （国会・プランゲ欠）

1947・9近法 松本治一郎「水平社運動25年」、赤松勇「大山郁夫先生の思い出」、馬場秀夫「から哲学の一掃」、佐伯宗義「国会雑感」、重井鹿治「山崎道子への公開状」、羽仁五郎・西園寺公一・佐々木良作・岩間正男「政局放談」、

1947・10 吉田茂「野党の心境」、栗山良夫「保守反動の意味は」、小坂善太郎「三代目談義」、並木芳雄「農村青年の文化」、岡崎勝男「降伏軍使マニラの旅」、秋月潤「政界謎の黒幕・辻嘉六を裸にする」、山崎道子「私は私の道を行く」、永村仁吾「西尾狐・平野狸の一騎打ち」、近藤日出造
（単行本 二木秀雄『政界ニューフェース』ジープ社刊行）

1947・11・12合併 <検閲>表紙の吉田・幣原漫画 hold, 「生きてる金融資本 集中排除法舞台裏の怪事件 suppress>近法 松岡駒吉「協調の精神」、鈴木仙八「噂は回る」、西園寺公一「水は流れず」、丸山幹治「政治家の映像」、水口多摩夫「代々木に咲いた赤い恋」、近藤日出造、
（1947・12『財界ジープ』創刊、一万田尚登、二木秀雄）

1948・1近法 米窪満亮「政治のロマンス」、清田伴二他「激動する政局の裏街道」、寺尾豊「野党の精神」、成田知巳「サラリーマンの運命」、平野力三「道義政治を裏切る者」、佐々木秀世「回想新たに」、「バラ卷かれた3億円？炭鉱問題」、西山愛一「近藤鶴代議士の姿態」（広告に三一書房・科学年鑑、第一製薬も）

1948・2近 瀧川幸辰「国会への期待」、「殴られた松岡議長」、板野勝次、松永義雄、阿部真之助、大橋富夫「敗戦後の歴代内閣」（検閲）

1948・3近法 西園寺公一「なぜ政局は安定しない」、「崩れ落ちる肉体の門」、清水崑、「渦巻く政界の濁流」（検閲）（印刷は東京証券印刷）

1948・4近 <この頃検閲資料に50,000部、目次・広告全部英訳で提出＝検閲迎合>田村泰次郎・二木秀雄「政治なき国会の門」、「芦田内閣はいつまで続く？」、羽生三七「乗り物と住居」、原彪「同姓同名」、中曽根康弘「青年の息吹」、神村湛七「生きている被追放者—第二線で大活躍の石橋湛山」（検閲）、「拾った春画 山下代議士半生記」
（1948・4『財界ジープ』一万田尚登、「財界追放者は何をしているか」、「経済犯百面相」）

1948・5近法 ダレル・ペリガン「日本のボス政治とギャング団」、「乱舞するヤミ政治資金」、「議事堂を徘徊する人々」、安平鹿一「社会党の弱みと強み」、並木芳雄「国会案内」、山中鹿太郎「政界に踊る思想家群像」、新連載大衆政治小説「生きている忠臣蔵」

1948・6法 謝南光・二木秀雄「米ソ戦は起こらない」、「百鬼夜行の民事党」、怪文書「共産党黒沢尻会議」、蟹村清「民主化に揺らぐ都の西北」、世耕弘一「議員随想」（広告にキャバレー美松・メリーゴールド・三越・帝国秘密探偵社・平和生命など、大衆娯楽雑誌『ジープ』創刊）

1948・7近法（プランゲ欠）吉田茂「強力単独内閣を主張する」、ゴシップ「ヤミ取引は肝と肝」、阿部真之助「私の好きな政治家」、「政界野球漫画大会」

1948・8法 佐藤尚武「ソ連をこう観る」、堀場太郎「労働運動の新台幣」、和田義三、堤寒三（二木「今では政治の民主化の旗手として全国十万読者」）

1948・9・1法 樽橋渡・二木秀雄「怪物は提唱する」、千谷守夫「共産党を動かすのは誰か」、高村司郎「民主化戦線に踊る当世3人女」、「夜の議事堂、韋駄天競争」、「懸賞十万円原稿募集」和田義三

1948・9・25特別政治情報第一号 「再開された娘の身売り」、「政界は濁りきった底なし沼」、「飛行機丸かじり、石油がぶ飲み、廃兵器どこへ流れた」（裸の女性が初めて表紙に）「わが国唯一の大衆政治誌、

政界浄化のために闘う政界ジープ、勇敢に真実を語る政界ジープ」「断然類誌を圧倒、躍進、特ダネ満載」
1948・10法 座談会「どうなる総選挙と次の政権：朝日・毎日・読売政治部長に聞く」、田辺幹夫「政治の裏街道をゆく：中央党工作の正体、狙いは細菌戦、風向き次第で保守合同へ」、高村司郎「性解放線に踊る3人女」、三木鶏郎「ボクが首相だったら」、和田義三、堤寒三
1948／10特集第二号加 「尾崎ゾルゲ赤色スパイ事件の真相」犬養健・尾崎未亡人インタビュー、「謎を包む札束のカーテン：昭和電工事件」、「根絶されぬ桃色興業」
1948・11加近法 「暴露された社会党左派の資金網」「漂流する芦田丸」、菅原通齋「芦田均という男」、「また始まった警察テロ」、「蝶蝶のような山口シズエ」、堤寒三漫画
1948・12法 花村勝夫「中野正剛自殺の真相」、夢野一兵「金と女と政治家と、昭電疑獄三題斬」、浦和太郎「数億円にのぼる衣料の大ヤミ」、「株屋ウキウキ、政治家ワクワク」

1949・1法 「特攻機」「政界群盗伝」、川越茂「対華外交秘話」、野田蒼海「政界怪放送、宇垣一成担ぎ出し工作とKATO機関」、村田三郎「動き出した労農新党」（検閲）、「新しい公務員制度とは」（検閲）
1949・2法 「労働台風の方向を探る」、「疑獄にからむデマの根源を衝く」、座談会「新聞を斬る」、徳田参三「世界の顔、毛沢東」、保利理定「燃え広がる学生運動」
1949・3法 別冊付録「中国共産党の全貌」、貝弾作「民自と共産の熱い戦争、大番狂わせの正月選挙」、北野星光「赤い電波に踊る岡田嘉子」、懸賞入選原稿「投稿は降る星の如く、農林官僚の不正」、那須良輔（直接購読読者優待、投書欄「読者議席」）
1949・4法 貝弾作「民主党の悲歌」、窪田清武「徳田球一君への公開状」、小堀甚二「社会党よ出直せ」、多摩清夫「鈴なりのアカハタ列車、文化人の集団入党」、「アジアを荒らした黒手組：娼家を経営する特務機関」、「吉田茂と東方会議」、横山泰三（社告「最近旧政界ジープ同人編集を名乗る本誌類似の雑誌があるが本誌とは無関係」）
1949・5法 佐野学・三田村四郎「わが反共宣言」、神山茂夫「裏切り者の論理」、志田義光「リュシコフ大将の末路」、「玄洋社と黒龍会」、「裸形の銀座」、徳川夢声、佐藤達夫、荒垣秀雄、与謝野秀、座談会「政治と科学」、二木秀雄「素粒子堂雑記：原子力は人類を滅亡せしめるか、それとも平和的・建設的に用いられ新しい文明の創造者になるか」連載開始（前号鳥尾夫人について事実誤認おわび、本紙記者上田君一身上の理由で退社今後一切関係ありません）（この号より、二木秀雄に代わって、発行元が東京トリビューン社、発行人・狭間研一）

（1949・6 厚生省医務局監修・総合科学研究会発行『とびら』『医学のとびら』刊行、ジープ社・二木秀雄＝「インターン生の雑誌・医師の国家試験の狭き門をくぐる全国幾千の同行に対しささやかな道しるべを与えることこれ本誌創刊の趣旨である」、1巻3号-3巻3号のみ国会図書館、欠号多、731 石川太刀雄連載、緒方富雄ら専門論文寄稿）

1949・6近法 立岡光明「赤い舞姫になった崔承喜」、「荒れ狂う首切り旋風」、横田泰平「ボリスとボス、自治体警察の裏口営業」（検閲）、「愚者の楽園吉田一家」、「傀儡政権来たり去る」（検閲）、根津野夢「セン片山の軌跡」、河原崎長十郎（検閲）

1949・7法（プランゲ欠）大寺昌作「日軍相撃つ太原攻防戦-山西籠城秘話」、ルポ「首相官邸」、「乱闘国会の生態」、「秘密探偵社の内幕を衝く」、「肉体の門を叩く」、「国会議員出欠表」、「政党ファン座談会」、小説「陸軍」（発行所「東京トリビューン社」に、主幹二木秀雄「別冊政界ジープ 創刊について」
1949・8法（プランゲ欠）「真夏の夜の夢」、細川炸造「十月革命説を衝く」、「南海の幽鬼-ニューギニアの悲劇：戦友の人肉を喰った」「保守合同劇の楽屋裏」、「苦悶する労農党」（「ある権威ある調査で、総合雑誌は文藝春秋、婦人雑誌主婦の友、文芸雑誌小説新潮、政治時局雑誌では政界ジープが上半期最も売れた雑誌」）

1949・9近法「蠢く反共包囲網」、「斉藤国警長官罷り通る」、「落選婦人議員のその後」、座談会「下山事件の舞台裏」、近本浩二（元大本営参謀大佐）「特攻機 惨烈の記録」、井上勇「芦田と檜橋」、田中堯平（共産党代議士）「大道香具師の唄」、横山泰三

1949・10法（プランゲ欠）「政界7不思議」、大竹敏三「天皇と幕僚」、引き揚げ者討論「裸のソ連」、ルポ「官房長官の生態」「インフレと共に去る安本王国」「新産別太平記」、懸賞「私は誰でしょう」（本誌は厳正中立・万年野党）

1949・10「別冊政界ジープ 受胎調節」（国会欠）京大名誉教授 731 戸田正三「生活物資と人工」、

公衆衛生院長古屋芳雄「人口問題と産児制限」、野坂龍「ソ連で産児制限はどう扱われているか」、加藤シズエ「わが産制運動の回顧」、式場隆三郎、馬島憊、田中耕太郎「受胎調節に反対する」（広告では1949・6・30『別冊 政界ジープ』「時の問題のエンサイクロペジア」1号、「受胎調節特集」東京トリビューン 定価85円）

1949・11加法 「政治家の奥さん」、「女ボス」、「ハバロフスク将官特別収容所」、「白足袋を追って」加藤芳郎、横山泰三、阿部誠「悲劇の海底空母—パナマ運河奇襲計画の全貌」（総合科学研究会「若き人々におくる性生活展」厚生省・文部省後援、浅草松屋）

1949・12（プランゲ検閲終了）法 「政界に渦巻く恋と謀略」、「大磯の土曜夫人」、殖田俊吉「わが反軍闘争」、「心霊術の正体」、（待望の巨弾『経済ジープ』創刊11月5日発行）

（この頃「大会社続々製薬業へ、ボロ儲けのクスリ商売、一役買う厚生省」）

1950・1法 「復讐する引揚者」、「海を渡る女」、「韓国の印象」、「政界千人斬り」、「乃木大将と桃色事件」、加賀信一「記録小説 謀報将校」、城戸又一「平和日本の出路はどこか」、二木「政界ジープの中立性とは何か—鈴木社会党書記長らに答えて」（広告 カルピス、三菱鉛筆、明治乳業）（ここで東京トリビューン社だが、発行人二木秀雄に戻る）

1950・2加法 「女ボス」、「揺らぐ吉田内閣の屋台骨」、「ソ連を支配する12人の男」、「大学貧乏物語」、三木鶏郎・石黒敬七「議事堂冗談教室」、「経済官僚千人斬り」、増田甲子七「闘病哲学と捨て身の政治」（東京トリビューン社、二木秀雄）

1950・3加法 別冊政界ジープ特集3号 「おどり出た 新興宗教」、大宅壮一「明治・大正・昭和新興宗教の全貌」、赤岩栄「インチキ宗教はなぜはびこるか」、武藤富男「銭函をひっくり返したキリスト」、「新興宗教に希望す」、「新興宗教銘々伝」（別冊は、ジープ社、二木秀雄）

1950・3法 「座談会 財界千人斬り」、「未亡人アパート」、「特集 日本共産党分裂す」、長谷川オ次「終戦前夜」（ジープ社社長松山清一郎を詐称し金銭強要は当社と関係なし、広告ペニシリン）（東京トリビューン社、二木秀雄）

1950・4法 別冊政界ジープ「戦争と平和」編第4号「戦争か平和か、米ソ戦を解剖する」「本社独占 アメリカの見た太平洋戦争始末記」、「米ソ軍備の実態解剖」、「米ソ戦わば」（ジープ社、二木秀雄に）

1950・4法 「銀行界千人斬り」、中山参吉「天皇戦犯の震源を衝く：スターリンの一弾は徳球天皇の胸板を貫く、ソ連が共産主義を深く浸透させる陰謀」「赤色裁判の恐怖、拷問のカラクリ、細菌戦裁判の実相を暗示する被告人少佐唐沢富雄のメモ 731は検事の誘導尋問による反米でっち上げ裁判・引き揚げ問題の煙幕」、「総合雑誌の楽屋を衝く」、「激動する政党、奥の奥」、「政治小説 祖国は荻外荘から崩れた」、漫画ルポ「性生活展探訪；問題の高橋お伝特陳室、医学生相談、明るい」、二木「素粒子堂雑記：原爆・水爆—次々に創造される人類の新しい力を何とか医学の上にも活用させたい」（発行元：ジープ社に）

1950・5法 別冊政界ジープ特集「自殺情死編 人は何故死ぬか」、「アプレゲール・自殺・心中・情死種々相」、古屋綱武「自殺の社会学」、本多顕彰「自殺の哲学」、大宅壮一「近代日本自殺名士銘々伝」

1950・5法近 「自由党・共産党 左右対抗座談会」、「婦人雑誌泥沼合戦の内幕を暴く」、「白足袋党と厄介党」、「偉大なるニヒリズム—人間甘粕正彦」（別冊政界ジープ改め「ジープ」刊行）

1950・6法近 「自由法曹団を解剖する」、「三鷹事件白書」、「2・26事件死刑直前の遺書 青年将校15名の叫び」、大宅壮一・水谷長三郎「自由放談」（この号より、編集人中西清、発行人二木秀雄、ジープ社）

1950・7法近 「徳田球一を裸にする」、「徳田球一予審訊問調書」、「一刀両断された赤い学生細胞」、「眉唾の内閣改造」、「偽造手形と中国募兵活動」、「大衆雑誌は何処へ行く」

1950・8法 「創刊5周年記念特集」「極東コミンフォルムの地下組織 G（デレヴィアンコ）機関とF（福本和夫）機関を暴く」「50年テーゼを生んだ革命指令」「共産党非合法化の前夜を探る」、「スターリン・吉田茂 架空対談」、「講話問題で稼ぎまくる岩波グループ」、「恐るべきソ連の拷問技術」、「国共合作秘話 共産革命の立役者ボロジンと語る」、大宅壮一「学生運動の史的回想」、「イールズ事件後の学生運動」、「暴力のペン振るう人民社の機密室：代々木本部と訣別した独立共産党—『真相』追放の真相、仮面をかぶった左翼商業主義、光クラブも顔負け、人民社から追い出された労農通信社、真相株主人名簿、日共の外郭機関、告訴によって太る、恐るべきスパイ政策」<「真相」四月号731特集・二村秀雄経歴暴露への反撃>（この号より編集人本田二郎・発行人二木秀雄・ジープ社）

1950・9法 創刊5周年躍進九月号「危機に立つ日本」「内地に潜入したH（極東コミンフォルム）機関」、「暴力革命の時期はいつか」、「戦慄する台湾」、「財界人は小学生—業界を喰う経済雑誌」、「武装共産党壊滅の歴史—特高警部補日記 田中清玄検挙への道」、「磐城セメント事件の全貌」、「対南方スパイ第一号

白書」、「トロツキーと伊藤律 架空対談」、「雑誌真相に出たヒロヒトを父に持つ男の後日談：名誉毀損告訴」、「ギャンブル狂時代」、ペリカン「アジアにも鉄のカーテンがある」、二木秀雄「雑誌の新性格：総合雑誌でも娯楽雑誌でもない流動型時局雑誌、戦後続々現れたいわゆる時局雑誌の多くはすでに影を消したが、今日残っているレポートにしろ真相にせよ旋風にしろ例外なく、その内容は別として、企画の立て方から編集の組み方まで、いちばん早く発足した本誌のスタイルをまねてスタートした」

1950・9 政界ジープ臨時増刊「戦争、日本はどうなる」、われわれの生活はどうなる、ソ連はいつ攻勢に転ずるか、ソ連果たして原爆を使うか、世紀の運命を決定する水爆の威力、日本国防軍は再建されるか、米国は日本を見捨てない、「戦禍の朝鮮」、「アジアの焦点横須賀基地」、二木秀雄「原爆戦か、ゲリラ戦か—意外なのは米軍の苦戦、ゲリラ戦がかなりの役割、日本は慎重に」

1950・10法（国会欠）「ゲリラへの招待状 日本でゲリラ戦は起こるか」、平野源三郎「岩波グループ平和運動の系譜」、北村千輔「モスクワから来た男 松村昇こと飯塚盈延の二重人格」、「私は見た赤い中国」、「日本の運命を握る百万人」対立する白華資本と赤華資本、文化を牛耳る中共文化団体」（この号より、編集人本田二郎、発行人佐藤浩四郎・ジープ社）

1950・11法 「初めて解けた世界の謎 ヨーロッパ・コミンフォルム本部に現れたグロムイコ」「帰ってきたソ連代表団 キスレンコ招請状に奮い立つ日共とその第五列」「大陸に流浪する蒋介石のゲリラ部隊」「ソ連に盗まれたアメリカの機密：B50」、「警察予備隊設立の舞台裏」、「甦る内務省警保局」、「潜行する9人を追う三つの眼」、「第二次大戦対米交渉秘録 井川忠雄遺稿」、「赤色追放—首を失った群れ」、大宅壮一「日本人民共和国の可能性」、「世界のワンマン列伝」（政界ジープ大阪支局小島正男なる金銭強要者はジープ社と関係なし）

1950・12近 「チャタレイ夫人の起訴状全文」、「吉屋信子邸毒殺未遂事件」「特集 講和をめぐる日本」、「鳩山一郎は政界に復帰するか」、「私は北鮮秘密警察のスパイだった」「秘境 チベット旅行記」

1951・1加近法（国会欠） 別冊・政界ジープ1 特集新年号「法と好色文学」鷲尾雨工「私の狩猟した艶書40冊」、内田巖「不自由時代の出版」、「海外筆禍史物語」、「好色即風流」（編集人高橋輝？夫、発行人佐藤清四郎、ジープ社）

1951・1法（国会欠） 別冊政界ジープ2「マネートークス」「天皇陛下お金を語り給う」、「生きているお金の百科事典」、徳川夢声「二銭銅貨」、森脇将光「人生貸借問答」

1951・1新年特大号「わが党の政策」「政治家というものの正体」、「皇室性典範」、「地獄の海の8か月」、「大物がずらりと東西財界に復活」、「警察予備隊をめぐる3つの手紙」（「断固事実を究明する 松谷天光の捏造名誉毀損告訴に対して 政界ジープ編集局」、広告から銀行・保険関係消え、薬品・書籍に）

1951・2国 「アジアの嵐」、平野力三「格子なき牢獄の3年間」、西尾末広「一市井人の偶感」、神山茂夫「予備隊を論ず」、河合良成「前途洋々の日本」、「最高裁の三底流」、「小説 北満の素浪人」

1951・3国 「オーミステイク・テインエイジャー」、「番線・桃色グループの生態」、「ワンマンの顔今と昔」、「スターリンの共産党と徳球の共産党」、

1951・4法 別冊政界ジープ臨時増刊「地方自治4年間の罪と罰」「首長と地方警察の因縁」「公務員行政整理の内幕」、「供出とボスと首長」、「公選首長はどうあるべきか」、「各党各派の皮算用」（編集人由良猛、発行人中西清、ジープ社）

1951・4国 「外人の見た日本の将来」、「赤い司令部に配属された日本版外人部隊」、「西独の再軍備と日本の再軍備」、「若しも全面追放解除が実現したら」、「桃色追放旋風の中の女秘書」、「政変は必ずある」、「ダレス会談劇の舞台裏」、火野葦平「或る革命家の結論」

1951・5国 「あなたの警察はこのままでよい」「警察はどうあるべきか」、「私の見た警察予備隊」、「白洲二郎お白洲に座る」「裏から見た各党選挙秘策」、「ワンマンの胃袋拝見」、「金沢天狗橋事件とは（商工会議所西川会頭と柴野知事の疑惑）」

1951・6国 「四五〇〇万票の行方」、金森徳次郎「私の愛国心」、「架空小説 日本人民共和国誕生」、「司令官更迭の内幕と波紋」、「再来ダレス特使の足跡」、浅沼稻次郎エッセイ

1951・6法 {国会欠} 別冊政界ジープ特集「成功の秘訣を語る戦後版繁盛記30人集」抗ヒスタミン剤・コニカ・谷桃子・田村泰二郎・三木鶏郎・笠置シズ子・大山康晴ほか、「誰にもわかる株売買」（編集人由良猛、発行人中西清、ジープ社）

1951・7 加「どっこい日共は生きている」、「鳩山一郎のアカ落とす」「政治家畜妾論」、三田村四郎「政令325号の限界」、「壊滅した台湾赤化工作隊」、「追放解除の舞台裏」、二木秀雄「人権を守る闘い」（編集人横山敏和、発行人中西清、ジープ社）

(1951年8月-52年3月休刊、二木によると「やむを得ない経済的事情」で休刊、しかし「わが国唯一の大衆政治誌」として52年4月復刊、櫻井柳太郎『石川政戦史』1953によれば鳩山一郎の資金で復刊)

1952・4国 本社社長二木秀雄再刊記「独立と躍進の要件(我が国唯一の大衆政治誌)」、「小説 石原完爾」、「代議士家業もまた楽し」、橋本洋「戦術から見た原爆戦」、山本容「地球の上に蚤が降る——恐るべき細菌戦」(「もしもペスト菌を培養された25億匹の蚤が地球の上に振りまかれたら、人類は一挙に破滅する」、かつてノモンハンでソ連機から赤痢、蚤も兵器、細菌は弾丸、科学の進展に応じた原子戦と細菌戦、細菌戦の方法、細菌戦の防御)、浅沼稻次郎「演説と旅行」、世耕弘一「吉田首相は赤が好き」、岡野清豪(ブランドバンク・国務省)「チャーチルの大蔵大臣」

1952・5国 「政界六花選」、石田博英「私は暴力派の巨頭」、「次期総選挙出馬予想表」、座談会(稲田正純・土居明夫・橋本洋・二木秀雄他)「帝国陸軍一影には実体がある」、

1952・6加国 「国会お好み十人衆」、「総理大臣逮捕すべからず」、「政界動物園」、「マニラの鼓動」、「日本貞操ジャングル」、連載小説「石原完爾」、「200万円大懸賞 衆議院解散は何年何月何日何時何分か」、二木秀雄「鮎川義介氏の闘志」(編集人宮下隆寿、発行人仁藤直哉、発行:株式会社ジープ新社中央区銀座西2-1)

1952・7国 「東京の最後」、「重光総裁のウラオモテ」、「国会発お盆興行」、「不真面目なのは男の議員—女議員の二筋道」、浅沼稻次郎「書記長稼業は苦勞がござる」、「現代日本の実相はこうだ」、「保守合同の癌、吉田茂」

1952・8 国会・大宅欠

1952・9 国会・大宅欠

1952・10国会・大宅欠

1952・11国会・大宅欠

1952・12近・国会欠「政界予言試合」、大野伴睦「洪柿とダボハゼ」、「街の庶民金融」、高野実「総評左派論を拝す」、増田甲子七・リンビン「公益より親善を」、土井明夫「第三次世界大戦の立体作戦」、「政界カスバ・ガイドブック」、佐倉洋二「小説 石原完爾」

1953・1 (この年国会全号欠) 大宅有

1953・2 国会・大宅欠

1953・3 加 (二木参院選石川地方区立候補) 陽春特別号「日本政治新聞政治面生成過程全図」、二木・中国大使「国民政府を打診する」、「保守合同舞台裏の惑星」、「広川弘禅における人間の研究」、「中小企業を殺す税金をどう変えるか」、二木「商工金融の行き方」(本社社長二木秀雄が一度参議院選挙に出馬するという噂が伝わるや、その道に異常なセンセーションを起こして遂に一代の風雲児・怪物出ると肝を冷やす者、狂喜して今日あるを期待し早くも激励賛同の手紙を寄こす者やら、この所社は異常な活気に包まれている)「編集部の宮下、猪狩の両君は、この機にこそ政界ジープを名実共に当代一流のものに仕立てんと多年の蘊蓄を傾けて市川編集局長を助けて日夜奮闘している」、社告、最近「政界ジープ・浜島竜介」なる名刺の曲者は本社とは一切関係ありません、編集兼発行人市川文三、株式会社精魂社発行)

1953・4加 (二木参院選石川地方区立候補中・内灘闘争の真っ最中で落選) 総選挙特集号「馬鹿野郎解散断行」「総理の椅子をめぐる激動」、「東亜連盟と石原構想」、木村武雄・東亜連盟同志会・二木秀雄「アジアの防衛はアジア人の手で」「同胞三万五千を救った話—中共引き揚げ問題」、「吉田打倒、冬期労働ストの実相」(編集発行人市川文三、株式会社精魂社発行)

1953・5 国会・大宅欠

1953・6 国会・大宅欠

1953・7 国会・大宅欠

1953・8 大宅有「現代政治の落第点」、「経済不況の鐘は鳴る」、「アトリーに反撃したマッカーシー」、「国会バッチ行状記」、加藤勘十「再軍備問題の真相」、川村善二郎「日本暗殺史」

1953・9 国会・大宅欠

1953・10国会・大宅欠 保全経済会は何故たたかれるか

1953・11 大宅有 土居明夫・羽仁五郎・丸山政男・二木「日ソ講和天気図」、「特殊金融機関の裏表」、日本映画の宿題、日本冶金工業漂流記、復帰なった奄美大島、二木「編集後記」8年連続は二木のみ

1953・12 大宅有、大門十九「臣茂を叱る」、池田勇人罷り通る、見てきた中共、吉田引退説の舞台裏、
二木「編集後記」さんざんたたかれてきた

1954・1 国会・大宅欠

1954・2 大宅有 だまされた森脇将光おおいに語る、東京銀行の謀略、スポンサーに見放された改進黨、久保俊広「切り捨て御免」、二木「編集後記」（編集兼発行人 二木秀雄）

1954・3 大宅有 政財界の醜聞をあばく、日本殖産に巣くう改進黨、緒方・芦田会談の背景、有毒黄変米で儲けた男たち、三転する繊維税のカラクリ、二木「戦争よりはスキャンダルがまし」

1954・4 大宅有 吉田内閣がつぶれた後は、東京都政の功罪、安井御殿という名の東京都庁、北洋母船の汚職を暴く、計画造船はどうなるか、二木「編集後記」原子マグロ、水爆、細菌戦

1954・5 加大宅有 「斡旋収賄、職務権限、政治資金規正法とは」、汚職ジャングル安井一家、保守新党の総裁は誰か、ビキニ水爆被災の裏話、右翼は金に困っている、調達庁の金庫を暴く、二木の憲法論

1954・6 国会・大宅欠

1954・7 大宅有 国政を糾明す、矢部貞治「汚された議会政治」、崩れだした日本の経済、肅正すべき日本専売公社、二億数千万円喰った日興證券の遠山天皇、吉田引退を決す、久保俊広編集長就任、二木退陣宣言

1954・8 姫路城下の暗黒事件、岸田兵庫県知事告発事件の真相、崩れゆく日興證券の遠山天皇、岩淵辰雄「危機に瀕した言論界」、吉田寿優等と鳩山新党の決戦、久保編集長・清水発行人

1954・9 大宅有・加「疑獄化する砂糖事件」、「東邦生命の詐欺事件」、「映画監督を監督する」、「東京予備校横領事件」、保科善四郎「吾輩の再軍備論」、「暴かれた加州銀行の乱脈」

1954・10 大宅有 移民政策を阻害した中央公論、茶坊主福永健司を切る、鳩山短期内閣なるか、無謀な北国銀行の内幕、夜の決算委員会、久保・清水

1954・11 大宅有 戦後の右翼作戦、伏魔殿農林中金を挟む、鳩山の前途樂觀を許さず、疑獄化するアルコール事件、民間放送てんやわんや、共済組合を裸にする、吉田引退・昭電疑獄スクープ

1954・12 大宅有 蠟山政道「国会の対象」、市川房枝「華族制度の復活をれる」、公金をかすめた仙台市長、MSA三六億配分で暗躍する死の商人、鎌倉市政を暴く、大衆化した遊戯場の実態、

1955・1 国 山川均「新年に国政を想う」、「吉田内閣総辞職へ」、「起こるか第三次日航騒動」、「隠された電電公社のカラクリ」、「再び国鉄外郭団体の裏面を衝く」、「第二の保全経済会、詐欺師太陽生命」、「世界連邦とアジア会議」（編集人・久保俊広、発行人清水隆英）

1955・2 国 「隠された国鉄会館の真相を決算委員会・検察庁に勧告す」、「鹿児島銀行の腐敗」、「中野四郎の仮面を暴く」、「続・電電公社の内幕」、「陰謀家岸信介を斬る」、「ブラジル移民運動の真相」、「二大政党対立へ」

1955・3 国 「鳩山早期引退、今や必要」、「肅正すべき東邦生命のスキャンダル」、「疑獄化する砂糖事件」、「一万田蔵相と選挙資金」、「口に国産化を唱え専ら外車愛用の国会族」、「再び鹿児島銀行を暴く」、「伏魔殿林野庁に再びメス」

1955・4 国 「両社統一政権の新政策を挟む」、「一万田対藤山の決戦」、「暴かれた加州銀行[石川銀行]の乱脈」、「宮崎県政と開発のカラクリ」、「政界汚職の源・緑風会の内幕」、「数字計算を知らぬ文部行政」（国会図書館はここまで）

1955・5 国会欠 鳩山内閣政局の危機、緒方と吉田の対決、続・加州銀行の腐敗乱脈、参院民主党を斬る、疑獄化する砂糖事件、台所に直結させたいこの美食、東邦生命の詐欺事件、(編集人久保俊廣、発行人清水隆英、政界ジープ社)

1955・7 国会欠、大宅有(10巻7号)(10巻7号)大宅有 法「早期保守合同ついに不可能」「財界を喰う電通の内幕」、「進まぬ両社統一の裏舞台」「国鉄の綱紀粛正」、日弁連感謝状「創刊10周年、政財界の裏面誌」法「[金沢]加州相互銀行の不正」(編集人久保俊廣、発行人清水隆英、政界ジープ社)

1955・8 大宅有 鉛筆に喰われた林野庁、追い込まれた鳩山内閣、加州相互銀行の不正、千葉相互銀行乗っ取り事件、民主党反乱部隊の内幕、あるか吉田利権王国の復活、人気女流作家を裸にする、編集人久保俊廣、発行人清水隆英、山形支局開設、ニセ記者にご注意

1955・9(第10巻9号)大宅有、政財界の裏面誌 創刊十周年、「立正校正界の内幕」、「政治米価の真相」、「鳩山新側近派地図」、「波乱を呼ぶ政界秋の陣」1955・9(第10巻9号)加 政財界の裏面誌 創刊十周年、(編集人久保俊廣、発行人清水隆英、政界ジープ社)

1955・10 国会・大宅欠

1955・11 大宅有 創刊一〇周年合併号、政界の黒幕 町野竹馬翁大いに語る、野坂参三「救国の道について」、祝創刊一〇周年広告鳩山一郎以下多数、映画界の艶だね、大阪ガス回顧記、今後の庶民金融、久保俊廣「創刊一〇周年に思う」写真入り

1955・12 大宅有 政界を跋扈する12人の侍、四国電力の実態を衝く、国際自動車の贈賄事件、新生社会党人事の裏面、食いにされる明年度予算、民主党婦人部の脱税、かくて自民党誕生す、自衛隊は立派な学校、石川県政界十傑

1956・1 発行未確認

1956・2 発行未確認

1956・3 発行未確認、3月26日「政界ジープ」事件発覚

(前社長・清水隆英が政財界ジープ社で誌名継続、前編集長・久保俊廣は『国会ニュース』から総会屋に)

1959・1(第14巻1号) 加(国会欠) 政財界ジープ社発行(清水隆英)「御成婚ちかづく皇太子と正田美智子さん」、「政界実力者群像」「財界実力者群像」、社説「岸内閣退陣せよ」、「電源開発」(編集発行人清水隆英、政財界ジープ社)

政界ジープ 第16巻第5号〔「近畿地方総合開発の課題」〕1961.5 昭和36年5月1日冊

http://www.waseda.jp/archives/tsutsumi_1_3.pdf

1652

政界ジープ 第十六巻第五号〔「近畿地方総合開発の課題」〕

昭和36年5月1日冊1刷http://www.waseda.jp/archives/tsutsumi_1_3.pdf



● 初めて日本軍の本格的細菌戦・人体実験を大々的に報じた1950.4『真相』第40号特集
「内地に生きている細菌部隊」で報じられた、『政界ジープ』二木秀雄の731部隊所属・石井
四郎との関係



雑誌「真相」40号(1950.4)「内地に生きている細菌部隊」特集

教授は、第七三一部隊実験室の凄惨な現場をひと目みるなり、イヤ氣がさして、石井の眼をぬすんで、半年もたたずに逃げ帰った。『第七三一部隊は、入ったら最後、よくよくのことでも石井部長じきじきの難解なテストをパスしなければならなかった』國立資源科学研究所員淺沼晴氏談から、林教授の逃亡を知った石井は、『見つけ次第殺してやる』とカンカンになつて、戦時中を通じて林教授の行動を、憲兵に監視させたから、同教授は、まったく、身のおきどころがなかつたといわれる。

現在「政界ジープ」という詩局雑誌を経営している元金沢医大細菌学教室の二木秀夫博士などは、第七三一部隊按師連中のなかでも、変りダネに属している。柔道四段あるいは五段ともいわれる二木博士は、それだからでもあるまいが、「陸軍のドラ息子」(乙津元憲兵曹長談)といわれた石井四郎將軍と、バカにウマがあい、昭和十三年いらい、第七三一部隊の新しい研究題目となつた「孫吳熱」病源体の検案のため、ずいぶんハデに、「満洲猿」を殺していた。満洲で実験に供されるものは、ソ連産であると中國産であると拘らず「満洲猿」であり、最近のソ連当局の細菌戦犯の發表後、二木博士は、極度に氣が滅入つていといわれるのは、やむをえないのである。



「満洲猿」をころしてちかごろくさつている
政界ジープ部長 二木 秀夫

すなわち四郎博士は、病源検案主任として、これは『いやだといつたのだけれど、どうしてもキミでなければだめだ』(笠原博士談)という石井部長の懇望もだしがたく、昭和十四年、第七三一部隊入りをした。ついで前にも紹介した凍傷実験専門の京都府立医科大学の吉村壽人教授、京大病理学教室の岡本耕造教授、兵庫縣立医科大学細菌学教室の田部井和教授、長崎医大の林一郎教授という関西医学界の中樞が、ぞくぞく石井にひつこめかれていつたが、林一郎

昭和廿年の春、九州で捕虜になつたB二九塔乗員八名のほかに、『なお行方不明となつてゐる米軍捕虜四十名以上』(二・二・二六朝日)あるといわれているが、在ソ戦犯の唐富雄軍医少佐は、『一九四三年春、わたしは奉天で入院していたが、そこへ第七三一部隊の科学協力者ミナトがたずねてきて、奉天で米軍捕虜にたいする傳染病免疫の研究を行うことを語つた。ミナトは専ら捕虜收容所のアングロ・サクソンに対する免疫の調査を行つていた』(二・四・一二・二七ハバロフスク放送)と陳述しているが、陸軍軍医團雑誌(三六六号)の「各地研究会記事」という欄に、「〇〇俘虜收容所の印象」という題目だけの「凄惨師」なる人の報告がある。北研の笠原博士の談によれば、ミナトと凄惨師とは同一人で、京大医学部漢正雄講師だそうである。

石井隊長が、第七三一部隊に狩りあつめた細菌、病理、生理学関係の学者は、彼の母校の京大出身のものが大半をしめてい

● 1953年参院選石川選挙区に無所属で立候補し落選した二木秀雄



参議院議員選挙結果（第17回以前） 石川

第3回（1953年4月）当選 井村 徳二 53 改進黨 新 210442 （1）

林屋 亀次郎 66 無所属 現 194279

二木 秀雄 45 無所属 新 12447

第4回（1956年7月）当選 林屋 亀次郎 69 自民 元 268824 （2）

塩田 親雄 61 社会 新 95135 梨木 作二郎 48 共産 新 28381

「政界ジープ」に手入れ

社長ら七人を逮捕

政・財界・知名人を脅す



取調べを受ける政界ジープ社員天野

警視庁捜査一課は大府警警本部と協力して、月刊雑誌「政界ジブ」の政界ジブ通信社（本社東京都港区芝田村町五ノ七、三股と齋根序捜査一課は大阪府警本部と協力して、月刊雑誌「政界ジブ」の政界ジブ通信社（本社東京都港区芝田村町五ノ七、三股と）の恐ろしい事件を捜査中だったが、十三日朝十一時半、東西両捜査課は二台検挙をほしめ、同社長兼取材局長久保保広（一）横浜市内西区花咲町四ノ二一、同総務局長泰山（二）成重正則（三）市川市野町一ノ八、同社長野完治（四）東京都南多摩郡忠生村木曾一〇八八（五）三人をおどし疑ひで捕え、また大阪では三州大阪交社社長三記者を捕え各自宅と本社、大阪交社を家宅捜索して証物書類、雑誌などを多数押収、本格的な追及にのり出した。

多額のカネをまきあげていたものに、さる一月下旬、成重は某大会社

に重機陣のスカンダルがあるといひ「この事実を書くぞ」とおどしたほか「会社を破壊するぞ」と千数万円を二月アツジブ通信社と交り

毎月四、五万部出していたもの、借財が多くなり株式会社政界ジブ社と看板を奪え、さらに昨

に於て同社の出し入れの手續のなかに何等かおと下してゐるやうな事をし、会社、銀行などは信用にもかかわる大問題だと泣き喚入りしてゐる素情だつたといふ。当局でも暴風記事を武器にした懸賞なおどし事件として重視してゐる。

なお同社では前社長二木氏はいま政界ジブト通信社には表裏上關係ないが、黒幕的な存在として重視、身辺搜查を進めるといつてゐる。

高松警視庁捜査二課長の話。被害者は山梨、銀行関係、眞實、知名人ら多数たのはつてゐる。これまで検討した結果では、やはり方々をめぐり悪賢なので、徹底的に調べ取つたい。この際根拠となつてお願ひしたいのは被害になつた人々の届出で、秘密は責任として守るから現査に協力するといふ意味でもぜひ届出、または捜査していただくたい。

大阪支社も搜索

【大阪発】大阪府警でもかねて警棍と連絡、敗弊ジープ通債社の恐ろけ容疑事件を内偵していたが十三日朝、大淀区大正川輪二丁目大阪発社を捜索、林三州社長ほか一記者を恐ろけ容疑で逮捕した。

調べによると大阪府下各地の社、銀行などから数十万円をよせつけていた疑い。

か。當時立法に當つた司法省と戦
の期限の迫つた現在、地主、僧地

災復興院の人々の書いた解説書
で、参院法務委では公聴会を開い

【解説】冬を過ぎ、三月十三日朝、二陣の若の去々々々、二日目の暁、輝がやま、一週暁、たぎやま、ら囀、り、や、ん、ま、べて、り朗、ら吉、ち数、た。

身

【甲府（甲府）を陣、輸長は、快速電、した。富十郎、後四時、分の二

「政界ジープ」社長逮捕

「暴露記事」で脅しの疑い

政界ジープ通信社の脅し事件を摘発、同社長久保俊広（きよひろ）三人を留置して取調べている警視庁捜査二課は、二十八日朝十時半ごろに追及の手をのびし、東京都中央区銀座西二ノ一株式会社政界ジープ社社長清水隆英（たかひこ）を大田区田園調布二四五〇を脅しの疑いで逮捕、同社と清水の自宅を家宅捜索して証拠書類を押収した。



清水隆英

で月刊雑誌「政界ジープ」を出版していたが、その後は政界ジープ通信社が出版を引継ぎ、現在の政界ジープ社は看板だけで出版はしていないという。

区議の退職金問題とり上ぐ

衆院地方行政委

東京都豊田区議会は二十七日区民の反対を押切って区議の退職金案例を可決したが、衆院地方行政委

の退職金案例を作り、過去にさかのぼって適用するのは不都合なことだ。条例そのものが直ちに違法であるとはいえないが、都知事を通じて区当局に注意を促す」と答えた。

三十日に門司へ

韓国からの引揚者

【下関発】韓国大韓海運公社から同社門司支店に入った連絡によると、同社所属客船アルマーク号（五七〇総トン）は引揚日本人百八

秋吉（山口）爆撃演習地

返当き体台がけふちをを



井上印刷局長

大蔵省印刷局の汚職事件追及は井上彌生印刷局長(右)東京都渋谷区南平台四九、去月二十四日辞表提出中の一の身辺にまでのはされ、警視庁捜査二課は一日朝九時、井上氏の出頭を求め自宅から警視庁へ任意同行、責任容疑で本格的な取調べをはじめた。同課では同日午後一時、東京地裁に責任容疑の逮捕状を請求し夕刻までには逮捕状が執行される模様。

調べの中心は去る二十九年六月の公邸(木造平家、建坪四十二坪)および敷地七百三十坪の私上げにからむ査定価格の不正に向けられているが、井上局長は「自分の知らぬ間に部下が土地家屋を三百四

十七万円(当局では時価約七百万円と認定)に価格査定し書類を作成したもので、自分は命じていない」と犯意を否認した。また印刷局出入りの業者に家屋の修理(約四十万円相当)させ

た点や、局長の幹部だけのゴルフ・クラブ入会費四十四万円を同局外部団体謝儀会に支払わせなどについても事実を認めたが、この間に取組関係はなかったと申立てている。

二木元社長も逮捕

「政界ジープ」脅カツ事件



二木元社長

月刊「政界」

の悪質な脅カツ事件を追及している警視庁捜査二課は一日朝十時、同事件の黒幕的人物として身辺捜査を続けていた元株式会社政界ジープ社長、医博「二木秀雄氏(右)」東京都大田区田園調布四ノ三九

一を脅カツの疑いで逮捕、自宅および事務所の家宅捜索して証拠書類を押収した。

調べによれば「二木氏はすでに逮捕された政界ジープ通信社久保俊広社長(右)および政界ジープ

社清水隆雄社長(左)と共謀して

某一流会社の機密記事をデッチ

あげて脅した、同社で応じな

いたため、さらにいやがらせの記

事を連載、ついに昨年九月ごろ

数百万円を脅しとったという。

また某会社に紙上でスキヤンダ

ルをあげられたくないならば、

時価約五千万円の土地を買えと

迫り未遂に終わった。このほか

「政界ジープ」をバックにして

政財界知名人をはじめ銀行、

会社など脅しの手口は極めて懸

どかつたという。

被害にかかってもほとんどが泣き

寝入りといった状態で、当局は余

罪追及に被害者の協力を望んでい

る。

なお二木氏は去る廿三年、政界

ジープ通信社の創立者。医博でも

あり金沢医大の講師、海軍技師

の経歴をもち去る二十八年四月

参議院議員選挙に立候補し落選

している。この二木氏の検挙で

政界ジープは事実上破綻の状態

になったと当局では見ている。

定信官合

試合じ島目込か日子せの

歩を行つた。

政界ジープ 東京地裁で 社長ら起訴

は十九日

タ、政界ジープ社の社長清水隆英
(元同社編集局長)(現政界ジ
ープ通信社社長)久保保広(元この二
人を被告とする)で起訴した。

遺族団の日程終る

被害

身にいた十三人の者のうち、同町三九二二ワイトレス水井キミ子さん（四〇）の全身に突刺された。

三十三歳の同町主婦で、同町三九二二ワイトレス水井キミ子さん（四〇）の全身に突刺された。同町三九二二ワイトレス水井キミ子さん（四〇）の全身に突刺された。

同町三九二二ワイトレス水井キミ子さん（四〇）の全身に突刺された。同町三九二二ワイトレス水井キミ子さん（四〇）の全身に突刺された。

同町三九二二ワイトレス水井キミ子さん（四〇）の全身に突刺された。同町三九二二ワイトレス水井キミ子さん（四〇）の全身に突刺された。

二木に懲役六年求刑

「政界ジープ」の会社恐かつ事件

有名会社や銀行を「バクロ記事を書く」とおとし、合計六千四百余万円を恐かつたとして起訴された東京都大田区田園調布四ノ三一九政界ジープ社代表取締役二木秀雄（五五）五被告の論告求刑公判が二十三日、東京地裁刑事十六

部山岸裁判長係りで開かれ、井野俊一検事は「言論の自由を濫用した懸念な犯罪だ」と五被告に懲役六年から同二年を求刑した。

記事をのせ、同社から連戦中止の依頼を受けると「金がかかっている」と二千万円をおとし取った。

このほか二木ら五被告は単独または共謀して同様の手口で恐かつを働き、二十八年十月ごろから三

十一年三月ごろまでの間に、野村証券会社を含め十九社から計六千四百三十五万二千円をおとし取った、となっており、被害会社には山一証券、住友銀行、神戸銀行など有名会社があげられている。

三十一一年四月の初公判以来、八

少年を使つて盗み

「錦政会幹部」らを逮捕

戦没者よ安らかに

少年を使つて盗み

「錦政会幹部」らを逮捕

年末割引

カタログ及特選品



年八カ月ぶりの論告だった。最終弁論は来年二月十八日から二十五日までの予定。
五被告の求刑内容は次の通り（住所、同書は起訴状による）
二木秀雄（五五）懲役六年
▽横浜西区花菱町四ノ二二六政界ジープ社取締役編集局長久保俊（五〇）懲役五年
▽東京都大田区田園調布二ノ四〇ノ五同社代表取締役清水隆英（六五）懲役三年
▽市川市八幡町一ノ六四八同社総務局長成重正則（五二）懲役三年
▽東京都港区青山南町五ノ四五同国青年隊顧問五島健二（五二）懲役三年
【東京】
分署、の阪急電
四番踏切
生してい
商加藤文
車に梅田
二五両編
二が衝突
車をひつ
走つてと

今日は何の日 3月13日

1956年3月13日—政界ジープ事件

この日、一流会社や銀行、政治家などのスキャンダルや暴露記事をネタにした恐喝で月刊雑誌『政界ジープ』が摘発された。14人を逮捕した。19件の犯行で被害総額は6960万円。戦後最大の恐喝事件となった。

● 第52回国会衆議院決算委員会第5号議事録（1966/10/19、30期）

<http://kokkai.ndl.go.jp/SENTAKU/syugiin/052/0106/05210190106005a.html>

○勝澤委員 私は、先般上林山長官のお国入りに対しまして、与党の押谷委員、あるいは各委員会で質問をされておるようでありますが、なるべく重複する部分は避けて質問をいたしたいと存じますので、ひとつ簡単明瞭にお答え願いたいと思います。

最初に御質問いたしますが、上林山長官はいま何の目的でどちらにいらっしゃるのですか。

○長谷川説明員 上林山長官は、きのうはニューヨークにおりまして、本日はワシントンに入りまして、そうして二十日にマクナマラ長官と会見する予定であります。

○勝澤委員 きんのうときょうの日程を、こまかく御説明できますか。

○長谷川説明員 ただいままだ手元に持ってきておりませんので、すぐ用意いたします。

○勝澤委員 何か、伝えられるところによりますと、ナイアガラの滝も見物をされているというようなことですが、いま長官のいろいろな問題についてこれほど批判を受けておる中で、そういうことがかりにあるとするならば、私はたいへん不謹慎だと存じますが、おわかりにならなければ、あとで十分ひとつお調べ願いたいと存じます。

そこで、いまおいでになっているのは、どういう方たちが長官と一緒においでになっておりますか。

○海原説明員 上林山大臣に随行いたしておりますのは、渉外担当の参事官の小木曾、海上幕僚監部の防衛課長の鮫島一佐、長官秘書官の西廣、このほかに令夫人が御同行になっております。

○勝澤委員 それで、これは、旅費といえますか、費用の関係はどういうようになっておりますか。

○海原説明員 アメリカ国内におきますところの一行の御旅行は、これは米政府の御招待でございますので、全部米政府持ちでございます。それまでの往復の旅費は、これは日本政府の負担でございます。

○勝澤委員 旅券の関係はどういうように発行されておりますか。外務省のほうから御説明願いたいと思います。

○内藤説明員 防衛庁長官と同夫人につきましては外交旅券でございます。その他の防衛庁職員につきましては、公用旅券が発行されております。

○勝澤委員 お国入りの日程についてお尋ねいたしますが、九月の二日に羽田を出発されて、九月五

日にお帰りになっております。第二回目は、九月六日に御出発されて九月八日に帰っておりますが、この日程は公用ですか、私用ですか。

○海原説明員 公用でございます。

○勝澤委員 それでは全部の日程が公用ですね。

○海原説明員 そのとおりでございます。……

○勝澤委員 それでは、上林山議員秘書という肩書きで防衛庁長官に申請をして搭乗許可を受けた人たちの、いかなる人であるかという点について、ひとつ御説明を願いたいと存じますが、立山慶二という人、それから森田林、**久保俊広**、福永民雄、上野匡司、原口栄、上林山くに、大坪熊太郎、重松明、門実代次、というのですか、この十名について疑問がありますので、年齢、職業、長官との関係、こういう点についてひとつ御説明願いたいと存じます。

○海原説明員 順次申し上げます。

○立山慶二氏は、年齢は五十七歳、その御身分と申しますか、御資格は大明工業会社の方でございます。

○勝澤委員 長官との関係は。

○海原説明員 長官との関係ということは、どうも私ども事務当局といたしまして、どうこうということは申し上げることをひとつお許しいただきたいと思います。

門実代次氏は三十八歳、この方は、私どもの調査によりますと、国会報道という新聞の関係の方でございます。次は森田林氏でございますが、この方は四十六歳でございます。私どもの知るところでは、衆議院の予算委員会関係の調査関係をしておられると承知いたしております。**久保俊広氏は、年齢は四十二歳でございます。この方は国会ニュースという新聞の社長をしておられると承知いたしております。**福永民雄という方は三十四歳でございます。この方は朝日テレビの記者の方でございます。次に上野国司氏、この方は三十歳でございますが、やはり朝日テレビのカメラマンの方でございます。次が、お話のございました原口栄という方でございますが、五十七歳、日東工営の顧問をしておられます。長官の御友人と承知しております。上林山くに、この方は年齢五十一歳、御存じのように、長官の令夫人でいらっしゃいます。次は大坪熊太郎氏、この方は五十六歳でございます。職業につきましては不詳でございますが、やはり長官の御友人の方と存じております。その次には重松明という方でございますが、この方は四十歳の方でございます。やはり長官の御友人の方ということで私どもは承知いたしております。

○勝澤委員 出身地を教えてください。

○海原説明員 住所はございますが、出身地につきましては、私どもは申請の上では記載をさせておりません。現住所はわかっております。

○勝澤委員 このお乗りになられた人たちというのは、大部分が鹿児島県の御出身の方たちばかりだ、こういわれておりますが、もう少し鹿児島県のおわりになっているのでしょうか、どういう関係だか、いかがですか。

○海原説明員 そのような報道もございますが、何ぶんにもそれぞれの方々との連絡がとれませんので、本委員会で責任を持ってお答えを申し上げるような状況でございません点を、ひとつ御了承願いたいと思います。

○勝澤委員 この中に出てくる門さんというのは、上林山さんの秘書ということで衆議院のほうに届け出が出ておりますが、その点といまの関係はいかがですか。

○海原説明員 届け出が出ているようでございます。

○勝澤委員 肩書きが二つあるようでありますから、これは上林山さんがおいでになってから、もう少し詳しく御説明を聞きたいと思えます。

そこで、この中におられる方でいま久保さんという方についていろいろな問題がいわれておりますが、この内容について、どういう人か、ひとつ御説明願いたいと存じます。

○海原説明員 私どもといたしましては、この申請書に書いてありますことによりまして、なおこの「国会ニュース」という関係をやっておられる方であるということの認識だけでございます。

○畑委員 関連。いま同じ搭乗者の中で久保俊広という名前の方ですが、「国会ニュース」の社長ということにいま御答弁がありました。ところで、新聞などの報道によりますと、かつて政界ジープ事件ということに関係をいたしまして、昭和三十一年ごろに検挙をされて、その後保釈になって、裁判が長引いておって、つい去年かに判決があって、実刑の判決があった。その後また再保釈をいただいて、現在保釈中である、控訴中である、東京高裁の六部か何かに係属中だ、こういう報道がなされておりますけれども、この点について——刑事課長おられますね。刑事課長にお尋ねをいたしたいのですが、はたしてそういった新聞報道等が真実であるかどうか。もしありとすれば、事件の概略、それから保釈の有無、それから制限住居は保釈関係でどうなっておるか、こういう点について承りたい。

○石原説明員 新聞報道で拝見をいたしまして、けさ調べたのでございますが、現在事件は東京高等裁判所に係属中でございます。私どもが電話で聞いたところによりますと、昭和三十一年、数件の恐喝罪で起訴されまして、昨年であったかことしであったか、ちょっと資料がないのでわかりませんが、懲役三年の実刑に処せられ、その後控訴中に保釈になったと聞いております。

それから、その事実の詳細につきましては、現在記録を高等裁判所の裁判官がお持ちでございますので、まだ見ておりません。

それから、制限住居の件でございますが、これはまだ記録がないのでわかりかねるのでございますが、裁判所の訴訟記録にとじられておりますので、私どもからお答えするのが適当か、あるいは裁判所に御照会いただいたほうがいいのか、かように考えております。

第053回国会 議院運営委員会 第2号議事録 昭和四十一年十二月十五日（木曜日）1966. 12. 15

<http://kokkai.ndl.go.jp/SENTAKU/sangiin/053/0096/05312150096002a.html>

○理事（鍋島直紹君） 私は委員長代理でございます。理事会等におきましてそれぞれただいまの御議論があったことも承知をいたしております。私自身の意見として柳岡君から求められましたので、私の意見を申し上げます。

まず、水田大蔵大臣に対して、現在種々の疑惑がある、それを、議運委員会あるいは理事会等に出席を求めて、その疑惑を一掃してから後に予算の審議に入るのが妥当ではないか、これが第一点。第

二点は、国会法第百四条によって、大蔵大臣の関連した事件に対しての裁判の記録を、資料を国会に提出することを要求するが、その意思はないか。こういう二つの点であったと思います。

○ 久保等君　しかし、委員長のそういう答弁では、もちろん答弁にもなっておりませんし、同時に、今日の事態を乗り切るには、あまりにも、むしろ無責任だと思うのです。何か事務的に議題をきめてこの議運で片づけてさえいけば、何か国会が円満に運営されるような錯角におちいることは、厳に慎んでもらわなければならぬと思うのです。すでに新聞等に報道せられております問題だけを考えてみても、水田大蔵大臣の問題について、例の政界ジープ事件の問題に関連して、非常に重要な役割りを、当時自民党の政調会長をやっておられたようですが、水田会長が介在をしておる、しかも事は恐喝事件として、すでに政界ジープの当時編集長であった久保俊広氏自体に対しましても、有罪判決が昨年出ておる。これはその後いま裁判はさらに係属中であるようでありますが、しかし、とにかくこの事実問題をめぐって、水田大蔵大臣の自宅において金品の授受が行なわれたといったような問題になりますと、恐喝事件そのものに現在の大蔵大臣が参画をしておるということは、これは事実問題として明確です。ところが水田大蔵大臣の言明によると、いや、それは他人のうちであったとか何とか言っておられますが、これも実はこの読売新聞等に出ております写真によりますと、明確に判決文の中にも明記せられております。若干この字は薄いようではありますが、しかし、とにかく大体読めるのでありますが、判決の中にも、「三十年八月三日ごろ、東京都文京区駒込西片町十番地水田三喜男方において、同銀行に対する」——同銀行というのは千葉相互銀行のことではありますが、「銀行に対する攻撃取りやめの懇請とともに、取りやめ料の趣旨で現金五十万円を交付」云々というふうに書かれておるわけでありますから、この問題そのものについても、特にこの問題に対する、交付をした場所について、全然自分のうちではないんだということを言われておりますが、判決文の中にすら具体的にそういうことを明確に記載せられておるというような問題については、私は、単に、この先般来取り上げられておった問題より以上に、事はきわめて明確であり、しかもまた非常に深刻な問題だと思うのです。この問題そのものも明らかにせずして、大蔵大臣が現職大臣として予算案の説明を行なう、あるいは予算委員会で究明してもらえばいいとか、法務委員会で究明してもらえばいいという問題ではなくて、まずその以前に、むしろわれわれが要求するのではなくて、佐藤総理みずからも、また大蔵大臣みずからも、私は、はっきり事実を国民の前に明らかにする一つの機会としても、この議運あたりに出席をされることを、おそらくわれわれが要請すれば私は首肯すると思うんです。

●二木秀雄の右腕、ジープ社常務久保俊広、陸軍中野学校出身、後の大物総会屋



今も生きている
テキヤの仁義



昭和62年11月1日発行

編著 久保俊廣
発行者

発行所
ジャパンポスト出版部
東京都港区芝大門1-3-9 大門第一ビル
電話 (03)432-1101(代)

●印刷 朝光邦
●製本

定価 1200円

ISBN4-915230-05-8 C0036

●「政界ジープ」記者出身小野田修二の著書『ドキュメント総会屋』『広告王国』〔大陸書房、1981/82〕

〈著者略歴〉おのだ しゅうじ
(ペンネーム＝小野田修二)
1928年1月、横浜生まれ。昭和21年、ローカル紙記者を振り出しに夕刊紙、雑誌記者をへて、この道35年一筋に生きる。「月刊ペン」編集長を最後に、フリージャーナリストとして活躍。
著書に「無法の判決」「銀行の陰謀」「商社の陰謀」「株式投資はウラ情報を知らぬと損をする」などがあり、共著に「電通公害論」「続電通公害論」がある。

〈著者略歴〉おのだ しゅうじ
(ペンネーム＝小野田修二)
1928年1月、横浜生まれ。夕刊「高朝報」記者、雑誌「政界ジープ」編集者を経て、総合誌「月刊ペン」編集長等を歴任、昭和49年以降フリージャーナリストとして活躍し現在に至る。
著書に「無法の判決」「銀行の陰謀」「商社の陰謀」「株式投資は真情報を知らぬと損をする」「ドキュメント総会屋」などがあり、共著に「電通公害論」「続・電通公害論」がある。

ドキュメント 総会屋

著者	小野田修二
発行者	竹下一郎
発行所	株式会社 大陸書房
振替口座	東京 一五六六二番
電話	(03)432-1101(代)
代表	小野田修二
印刷	三晃印刷
製本	三晃印刷

乱丁・落丁のものは小社またはお買求めの書店にてお取替え致します。
定価はカバーに表示しております。

ISBN4-8033-0511-0

4,200-
広告王国

著者	小野田修二
発行者	竹下一郎
発行所	株式会社 大陸書房
	東京都新宿区大久保1-2-20
	電話 03-209-3281 (代表)
	郵便番号 160
	振替口座 東京 1-56612

印刷・製本 (株) 三晃印刷
カバー印刷 (株) 三晃印刷

乱丁・落丁のものは小社またはお買求めの書店にてお取替え致します。
定価はカバーに表示しております。

ISBN 4-8033-0615-X

●正統保守の敵「つくる会」一部首脳を追撃します

「新しい歴史教科書をつくる会」が自由社から出した教科書は反日自虐。 フジサンケイグループ育

日本出版協会の前身は、大東亜戦争開戦前年の昭和15年12月に発足した出版界の国家統制団体「日本出版文化協会」です。18年3月には国家総動員法に基づく出版事業令によって、権限を強めた「日本出版会」に改組されました。

終戦後の昭和20年10月に「日本出版協会」となり（21年5月、社団法人登記）、戦争に協力していた立場から一転して、GHQの手先となって出版界の戦争責任追及を行います。21年1月に講談社、主婦之友社、旺文社など7社を戦犯出版社として追放する決議を行いました（このあたりのことは大阪国際大学名誉教授、岡本幸治先生の『骨抜きにされた日本人―検閲、自虐、そして迎合の戦後史』PHP研究所に詳しく書かれています）。

これらの動きに反発した21社が日本出版協会を脱退して、この年の4月に「日本自由出版協会」（後の全国出版協会、日本書籍出版協会）を結成し、加盟社は増えて日本出版協会は少数派になります（看板は持っているけど少数派に転落したというのは「つくる会」と同じです）。

❑左翼書評紙の発行 さて、業界団体としての実体を失った日本出版協会ですが、昭和12年創刊の「日本読書新聞」の発行は続けました。紙面は左翼的で、39年3月9日号では義宮さま（常陸宮さま）と津軽華子さんのご婚約をめぐって「この御兩人、どう見ても性的發育不能者。あのほうの夜のことを心配しますね」というとんでもない不敬記事を掲載して民族派から激しい抗議を受けました。そして、60年安保から70年安保にかけて左翼思想界を扇動し、新左翼（極左暴力集団）の学生から支持されます。「新聞の中の新聞、出版社の中の出版社といわれ、大学祭のスローガンか学生運動の立て看板のような見出しで、左翼学生や文学青年を魅了してきた」（佐野真一『業界紙諸君！』ちくま文庫）。70年安保前後には公称14万部発行した年もあったそうです。

❑総会屋の介入 しかし連合赤軍事件以降、部数が急減。昭和50年には大物総会屋の上野国雄氏が理事長に就任します。日本出版協会と総会屋の関係は54年4月24日の衆議院法務委員会でも取り上げられ、社会党の議員が「総会屋の上野氏が占拠しているのは日本出版協会。去年、上野氏は死んだわけでありましたが、総会屋がそういう公益法人に顔を出している」と政府を追及しました（国会会議録検索より）。日本読書新聞は昭和59年12月で休刊となります。原因は日本出版協会事務局長による使い込みです。協会が社屋を建て替えた際（今「つくる会」が入っている建物です）、1600万円の使途不明金が発覚し、Tという事務局長が使い込んでいたことが分かったのです。横領の総額は3500万円以上でした（59年12月22日付日本経済新聞）。上野氏の死後も総会屋による支配が続きます。昭和60年から1年余りの間、「日本読書新聞を発展的に継承させた」という名目で「Book World」という月刊誌が発行されましたが、その誌面は「出版社の広告とは全く見当たらず、それに代わって、トヨタ、日産など、大企業の広告が随所にはさまれており、見る人が見れば、総会屋系の雑誌であることが容易に読みとれる」（『業界紙諸君！』）。この当時の日本出版協会専務理事Y氏は平成2年に大手工作機械メーカーをめぐる利益供与事件で逮捕されました。

❑K前理事長と石原理事長 日本出版協会に入り込んだ闇の勢力は登記簿で簡単に確認できます。大物総会屋で左翼系雑誌「創」の最初のオーナーであるF氏の名前もありますが、一番有名なのは理事長を務めたK氏[久保俊広]でしょう。K氏は長年ブラックジャーナリズムの世界に身を置き、「政

界ジープ」という国会情報紙を経営していた昭和31年、「暴露記事を書くぞ」と言って野村証券など一流企業から計6400万円を脅し取って逮捕されています（「政界ジープ事件」）。43年に摘発された「日通事件」では日本通運側の意を受けて政治家にわいろを渡しています（同年6月25日付東京新聞には「国会に巢食うダニ」という見出しが躍っています）。53年に発覚した航空機汚職「ダグラス・グラマン事件」でも、裏金の仲介役としてマスコミや国会で名前が出ました。K氏は平成11年9月に退任。所管官庁である文化庁の意向もあり、翌12年6月から今の石原萌記氏を理事長とする「新体制」になりました。

● 大物総会屋・小川薫の死

2009-05-11 10:07:04

<http://ameblo.jp/uranews/entry-10256242434.html>

交際のあった強面月刊経済誌「政界ジープ」の小野田修二記者が、後に自著で「最後の大物総会屋」と紹介したのも記憶に新しい。

● 二木秀雄の猟奇

処刑された高橋お伝の陰部の標本が存在する一。『毒婦伝説―高橋お伝とエリート軍医たち』という本がこの四月に出たことに触発され、

<http://togetter.com/li/502330>

昭和31年の「”高橋お伝”の下腹部あらわる」事件で標本の持主として名乗り出た元軍医の二木秀雄。彼は『素粒子堂雑記』という随筆を出している。素粒子堂は彼が銀座に開いた診療所の名前である。この本に収められた昭和24年9月の文章に次の一節がある。「七月から九月にかけて、私の主催している総合科学研究会は大阪の阪急百貨店、東京では銀座三越と浅草松屋で「性生活展覧会」を開催した」。やはり、件の標本が出現した浅草松屋の展覧会の裏には二木秀雄がいた訳である。阪急、三越での開催も明言している。

- 1949・6 厚生省医務局監修・総合科学研究会発行『とびら』『医学のとびら』刊行、ジープ社・二木秀雄＝「インターン生の雑誌・医師の国家試験の狭き門をくぐる全国幾千の同行に対しさやかな道しるべを与えることこれ本誌創刊の趣旨である」、1巻3号-3巻3号のみ国会図書館、欠号多、731石川太刀雄連載、緒方富雄ら専門論文寄稿

「とびら」 1巻3号 1949年6月(49年4月創刊か?)

大島蘭三郎「日本医学のあゆみ」、堀江二郎「開業医が最もおそれている麻薬の使用について」、緒方富雄、医師国家試験予備試験委員名簿 (医薬品会社広告多数)

1巻4号-2巻2号欠

「とびら」2巻3号(通巻12号) 1950

木田文夫「医学概論」、石川太刀雄「肝臓の病態病理」、児玉枝三、久保田重孝、渋谷喜志雄、菅邦夫、中尾仁、栗山、二木秀雄「ぴあ・めでちな」(編集発行人 二木秀雄)

「とびら」2巻4号(13号)

藤田恒太郎、西嶋順一、三澤敬義、渋谷喜守雄、菅邦夫、平松博、小林敏雄、庄司常次、宮沢修、相沢豊三、阿曾弘一、二木秀雄

改題「医学のとびら」2巻5号

岡西順二郎、齊藤幸一郎、年和、石川太刀雄、阿曾弘一

「医学のとびら」2巻6/7合併号

福田勇、佐伯政雄、齊藤幸一郎、石川太刀雄「脂肪代謝の病態生理」、鈴江三郎、年和、阿曾弘一、二木秀雄

「医学のとびら」2巻8号 1950.8

西靖説一、笹本浩、阿部逸雄、佐伯政雄、石川太刀雄、谷川直臣、原政敏、阿曾弘一、室谷達治、二木秀雄、医師国家試験合格者名簿

「医学のとびら」2巻9号{18号} 1950.9

三井但夫、金子栄寿、沖中重雄、高橋善弥太、大鈴弘文、石川太刀雄、阿曾弘一、二木秀雄

「医学のとびら」2巻10号(19号) 1950.10

藤田恒太郎、三宅武、佐々木哲丸、高橋善弥太、内山圭吾、三辺謙、石川太刀雄、阿曾弘一、二木秀雄 (編集人 福田正次郎、ジープ社単行本広告、売れ行き悪い、高すぎる)

「医学のとびら」2巻11号(20号) 1950.11

藤田恒太郎、中尾仁一、高橋善弥太、浅野誠一、石川太刀雄、阿部政三、杉本敬二郎、二木秀雄、阿曾弘一

「医学のとびら」2巻12号{21号} 1950.12

藤田恒太郎、大鈴弘文、浅野誠一、松林久吉、石川太刀雄、阿曾弘一、二木秀雄

「医学のとびら」3巻1号(22号) 1951.1

中尾仁一、谷川直臣、藤田恒太郎、原島進、鈴木喬、石川太刀雄、齊藤幸一郎、二木秀雄、阿曾弘一、内野仙治、須田経宇

「医学のとびら」3巻2号 国会欠

「医学のとびら」3巻3号(24号) 1951.4

中尾仁一、新島迪夫、中島実、牛場大蔵、畑下一男、秋葉朝一郎、新海安彦、石川太刀雄、二木秀雄、阿曾弘一